59

福島甲種医学校助教論 村地研三『裁判医学』講義中の精神病学

岡田　靖雄
青柿舎（精神科医療史資料室）

日本の初期精神病学は裁判医学（断訟医学，法医学）との関連がきわめてふかい．デーニツゲ1875年開校の警視庁裁判医学校で講義した内容が，1879年に『断訟医学』として出版された．その10分の1が「精神障碍ニ関スル断訟医学上検査」にあてられていて，これが西ヨーロッパ精神病学体系の日本への最初の紹介であった．また1879–80年に愛媛県公立医学校でローレツがした『断訟医学』講義では，「裁判上精神学」が各論の最初におかれていて，全体の7分の2強をしめている．

東京帝国大学医科大学では法医学の片山國嘉が，榊俶が死去し呉秀三が帰国するまで4年間精神病学講座を兼担していた．金沢医学専門学校の松原三郎および長崎医学専門学校の齋藤茂吉が精神病学のかたわら法医学をおしえており，齋藤の後任高瀬清の留学中は法医学の淺田一が精神病学を担当していた．

今回，福島甲種医学校助教論村地研三口授・若松開業医萩野元碩筆記『裁判医学』を入手した．須賀川医学校は1872年（明治5年）に福島県立須賀川病院に開設された（→須賀川医学講習所→須賀川医学校）．1881年医学校は福島に移設されて福島医学校となったが，1887年廃校．村地の裁判医学の聴講は，医学生のほかにもひらかれていたわけである．

村地研三は1859年（安政6年）生まれ，1886年（明治19年）東京大学別課医学卒業．医籍登録は同年792号．福島医学校廃校ののちは，出身地滋賀県神崎郡南五箇荘村で眼婦人科川並病院を経営していた（1926年の1926年の『日本医籍録』には“郡医師長県医師会幹事”としてのっている）〔村地の経歴については，小関恒雄・樋口輝雄両氏のご教授をえた〕．

さて，「精神病学」は，目次をふくめて全97枚の『裁判医学』中で，“此ノ最モ困難ナルハ精神病学ナリ故ニ先ツ是ヲ説カントス”と冒頭におかれて34枚にわたっている．つづくのは，致死傷論，殺児論及小児自死論，交媾生殖論，姦淫猥褻論，妊娠分娩論，身体ニ対スル損害，致死論，裁判医律，附録（電気生理反応及病理的反応）の各章である．

精神病学の部分は，

精神病学総論
精神病学各論
（壱）先天性精神病及生後数年ニ発スル精神病　（1）失神　（2）弱神　（3）官触発育不全ノ為ニ精神不十分ヲ来スモノ　（4）道徳狂　（5）意志狂
（弐）后天性精神病　（甲）単純精神病　（一）メランコリー　（二）マニー　（甲二）暫発狂　（三）痴狂　（四）后天痴呆　（乙）複雑精神病　（1）麻痺狂　（2）癲癇狂　（3）ヒステリ狂
精神病鑑定法通論　詐病
精神病真偽鑑定法

の各章からなっている．

では，村地の裁判医学，とくに精神病学はだれによっているのか．別課医学では三宅秀，片山が裁判医学を教授していた．村地での精神病の分類は，今までみてきたものとはことなる．“自治力”，“失神”など一部の用語は片山『裁判医学提綱』（1882–88）に共通している．また，症例としてフランス人2例，イタリア人1例があげられている．全体として，村地の分類は『裁判医学提綱』のものとはことなる．村地がよったものはまだわからず，今後探索をすすめていきたい．